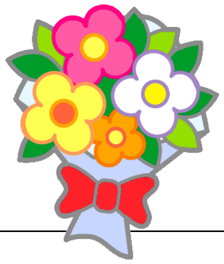
山武西小学校
学校だよりNo.15



やさしく　かしこく　たくましく

かけはし

2020. 1. 16

22回目の創立記念日

１９９９年(平成１１年)1月１６日、山武西小学校の校旗が伝達され、校歌・校章が披露されました。この日を創立記念日とすることになってから、今年２０２０年は２２回目の創立記念日を迎えました。今日は、西小の校歌を作ってくださった、布留川洋子先生の手記をご紹介します。これは、平成１９年１１月に西小の１０周年記念式典に際し、布留川先生が寄稿してくださったものです。先生の校歌への想いに触れ、最後まで大切に歌ってほしいと願います。

校歌への想い　布留川洋子

みなさんお元気ですか。創立十周年おめでとうございます。

さて、山武西小学校から私が校歌の作詞と作曲を頼まれたのは、今から九年前のことです。児童のみなさんやＰＴＡのみなさんから校歌に入れてほしい言葉や事柄を送ってもらうということで引き受けることになりました。私の家にたくさんの文章や詩が送られてきました。私はそれらを読み、頭に入れた上で作詞を始めました。その頃たくさん詩は書いていましたが、校歌を作るのは初めてで、なかなかまとまらず苦労しました。その頃、私は母の介護をしていましたので、老いた母と向き合いながら若いみなさんが歌う歌を作るという苦しさもありました。

作詞が終わって作曲にとりかかろうとした時、家に五線紙がありませんでした。白い紙に線を引いて五線紙を作ったように覚えています。若い頃大好きだったシューベルトの音楽から二小節取り入れ、およそ二ヶ月かかって完成しました。

この校歌は三番までありますが、それぞれちがう内容があります。

一番では、みなさんの校舎がどんな所でどんな様子をしているかを書きました。みなさんは本当にいい所に学校を建ててもらい幸せです。緑あふれる大地に囲まれた六年間は一生心に残ると思います。

二番では、このあたりの歴史について書きました。山武西小のまわりの田畑や山林には長い歴史があり、作物や樹木を育ててきた人々の心も、親から子へと受けつがれています。自然と向き合って働いてきた人々の心は深く穏やかです。みなさんにもこの深く穏やかな心を受けついでもらいたいと思います。

三番で私がみなさんに伝えたかったことは「つらさ」が人間を創るということです。暗い谷間に植えられてしまった杉の木は早く日光を浴びようとして、かえってまっすぐに育ちます。つまり「天をめざす」のです。

ここまで歌詞の内容を順をおって書いてきましたが、もう一つ私からみなさんへのメッセージがあります。

私はこの校歌の中に「地球」と「世界」という言葉を入れました。なぜこの二つの言葉を入れたか分かりますか。百年位前にできたこの辺の学校の校歌にはこれらの言葉は入っていません。ということは百年の間に人々の世界と地球に対する気持ちが変わったということです。変わってよくなったのか、それとも悪くなったのか私たちはよく見きわめなくてはいけません。

地球は休みなく回り、朝がきて昼がきて夜がきます。人々の生活は地球が回ることによって変わっていきます。人も動物も植物も地球が持っている水によって生かされています。地球は人間が何をしても怒りません。壊しても汚しても・・・・・。でも私には地球が悲しんでいるようにみえるのです。

先日、月から送られてきたという地球の写真を見ました。青かったのでほっとしました。青く美しい地球と、かしこい人間が上手に未来へと進んで行けるよう、祈りをこめて、私はこの校歌のはじめに「地球は回り・・・・・」と書きました。

それでは「世界に向かって駆けてゆく」という行にはどんな意味があると思いますか。世界中を旅する人もいるし世界中飛び回って仕事をしている人も多くなりました。それは悪いことではないのですが、世界中には助けを求めている人々がおおぜいいます。そのことを忘れないでほしいのです。

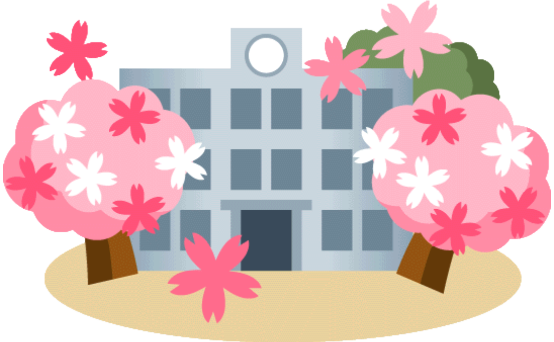
水の必要な人には水を、病気の人には薬を、飢えている人には食物をあげてほしいと思います。自分だけが、また自分の国だけがよければいいという時代は終わっているのです。今のみなさんには駆けて行くことなんてできないと思われるかもしれません。しかし、世界のことを学ぶことはできます。今は本や映像の中で世界中を駆けめぐることができるでしょう。

校歌にかかわることでみなさんに伝えたいことはこれで終わりです。創立記念日にみなさんがどのように校歌を歌ってくれるか楽しみです。また、山武西小がどのように変化したかをみたいと思います。それでは山武西小のみなさんのたくましい成長を祈りながらペンを置きます。

布留川洋子先生の紹介

山武西小学校の校歌の作詞・作曲者です。

中学校の音楽の先生で長く山武中学校に勤務しました。

一方、荒川法勝という詩人の門下生でもあり、詩作にも励んでいました。旧山武町の町民歌の作曲者でもあります。

四十歳前後から五十歳代半ば前後で山武中出身の方々は、布留川先生から音楽を教わりました。